



ミュラー社のショールームの窓辺に飾られているのは、木製のアーチをモチーフにした、"シュヴィップボーゲン"。クリスマスの降臨祭が始まると、各家庭の窓辺に飾られるそうです。



モミの木の木彫品、"タンネンバウム"。

ザイフエンの名物の一つ、くるみ割り人形。



アドヴェント(降臨祭)用のキャンドルも人気。



"ラウフメン・シンケン"と呼ばれる煙出し人形。空胴になつていて、人形の中にお香を立てると、煙が出て、パイプをふかすように見えます。



可愛いデザインのエンジェル人形も豊富です。

MÜLLER OHG  
Hauptstrasse 132 D-09548  
Seiffen/Erzgebirge  
Tel. 037362-7710 Fax. 037362-77177

旅の終わりにかけて、三日間をエルツ山脈の山の中で過ごすことになった。宿は国境近くの峰にあり、テラスに出るとエルツの山波が見渡せた。夕陽を浴びて緑は深みを増し、谷あいは濃く陰影をきざんでいた。澄んだ空気が肌に心地よく触れる。山脈とはいえエルツに高い山ではなく、最高峰でさえ千三百メートルそこそこの、山の反対側はチエコである。

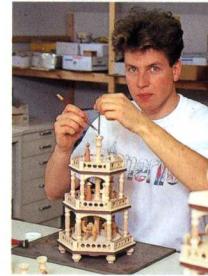
「鉱石(エルツ)」という名のとおり、十六世紀ころまでは銀や銅の採掘が盛んだった。ザクセン侯国(現在のドイツ・ザクセン州)が栄にあった。世界的に有名なマイセン磁器を開発する力のみならず、鉱業であった。

エルツは三度目である。最初は旧東ドイツ領だったとき、二度目は東西ドイツの統一直後に国境が開かれたとき、そして今回。それだけに統一後の変化が、さまざまと見てとれる。道路が整えられ、村の家並が新しくなり、ホテルやペンションが建てられ、なによりも風景に華やぎと落ち着きが出てきた。ひとの心が豊かに落ち着いてきたのだろう。



ミュラー社の製品でコーディネートされた、クリスマス。ピラミッド型の飾り棚はキャンドルに灯をともすと、プロペラが回る仕組みになっています。

ピラミッド型の装飾品やエンジェル・鉱夫人物、クリスマスオーナメント、キャンドルスタンドなど、エルツ山脈地方の工芸品を扱う工房の社長、26歳のリンゴ・ミュラーさんは、腕のいい職人さんでもあります。



ミュラーさんが作っているのが、ピラミッド型の飾り棚。台座から人形まで、一つ一つ木で精巧に作られています。伝統工芸品としても有名。



## 鉱業から木工へと時代は移り、木彫り人形の村として栄える

ツタさんの創作意欲を育んだかも知れない。私はテディベアなどぬいぐるみを作るようになつたけど……一家に伝わる人形への愛が、ユニークルンベルグは、おもちゃ博物館でも有名である。規模の壮大さ、人形や組み合わせの多様さ、歴史背景の深さにおいて確かに群を抜いている。一見の価値がある。